

韓国からの来客

田村 正夫
予科4-6
航空6-4
(富士見市)



昨年の11月上旬、日本の安倍総理と韓国の朴大統領との会談が行われた。その後韓国の反日、日本の嫌韓の報道がなくなり沈静化したように見えたが、最近或る新聞の社説に「元慰安婦を支援する財団の設立等委員会が韓国で発足し、今月中にも財団設立の予定。しかし韓国民の理解不十分で合意を評価しないが73%もある・・・」とでていた。また日本でもヘイトスピーチ(憎悪表現)対策法が衆院本会議で可決と報じられた。特定の民族や人種への差別的言動をしてはいけないとの趣旨であるが、その法律の制定に反対のデモをやろうとしたり、在日韓国人が座り込みでデモを阻止しようとしたニュースを見た。

昨年日韓の首脳会談が行われた頃、わが家に韓国から3人の来客があった。呉錫高(元中学校教師で87歳、日本語堪能、本人は自信ないと言っているが日本文も書ける)、金承大(歴史関係の博士、全羅北道道庁文化財調査研究員)、金鎮惇(全羅北道文化財専門委員、書道家)の3人。3人が来日することになった経緯は；

私の妻(敏子)は戦前父親の勤め先の関係で、韓国全羅北道益山市(旧益山郡裡里町)に住んでいて、現地の小学校の教師をしていて、終戦で引き揚げてきた。

8年前の平成20年に私ら夫婦と長女と妻の兄弟と6人で韓国を旅行し、妻の当時

の住いや、妻の出身学校、勤務した小学校など尋ねた。益山市の弥勒寺・遺物展示館を見学した時、妻は当時を思いだして作った地図をたよりに資料と照らし合わせていたら、展示館の郷土研究家で調査官の金承大さんと出会い、ガイドの通訳を介して昔の裡里町について話し合った。終戦のごたごたで日本色は払拭され、この町の地図等の資料は殆ど紛失されていた。また1950年頃に裡里駅で大爆発があり、駅は吹っ飛び、駅前の町も焼失してしまったので以前の町の様子は全く分からなくなったので、妻の地図や記憶は貴重なものであった。ホテルに帰ってからも金さんが訪ねて来て、妻に当時の町の情報を詳しく聞いた。そのことが我々の帰国後に新聞に報道された。

最近になって呉さんと金さんが出会った時、金承大さんの郷土史研究の話になり、町の地図を提供して呉れた妻のことが話題になった。

呉さんは1945年では小学5年生、(朝鮮《当時韓国はなかった》では小学校入学年齢は6歳～10歳、同学年でも児童に年齢の差があった)妻は1年担任であった。呉さんが小学校の同窓会名簿で調べたら、姓名は違うが名が同じで、同じ町内に住み運動会のマスゲームを指導していた先生が妻であったことが判明した。韓国では結婚しても姓は変わらないが日本では姓が変わる。

金さんは郷土史の研究上、妻から聞きたいことが沢山あったので、訪日を思い立ち、そこに居合わせた書家の金さんも参加することになった。

早速、妻の所へ国際電話がかかってきたが「10月に羽田に着く、田村家までの電車など道筋を教えてほしい。田村家に泊まって勉強させて欲しい。観光の予定はない」と、こちらの都合などは考えない一方的な話なので戸惑った。返事しようにも呉さん

の住所がわからない。そこで裡里訪問のときガイドをしてくれた益山市文化観光課の安田和子さん(結婚して裡里に在住)を思い出し、呉、金さんを探して連絡してもらうことを考えた。安田さんにこちらの状況や予定を説明し、会合の場所、家での宿泊はできない、ホテルを用意するなどをメールした。安田さんの好意で呉、金さんを探しあてて連絡してくれた。その後数回の電話やメールのやり取りで来日が決まった。

10月30日午前10時、準備万端整え羽田に妻と長女(直美)が歓迎の案内表示板を持って出迎えた。

昼食後、港区立男女平等参画センターの小会議室で話し合った。金承大さんは2日かけて調べる予定だったが半日で調査ができたと喜んでいて。宿泊は飯田橋のホテルメトロポリタンエドモントを用意した。

翌日は調査が終わっていたので、東京の街を自分の脚で探索したいと、長女が案内することになった。3人にスイカのカードを買い与え電車で回ることにした。

最初は直ぐ近くの秋葉原、電気店街を見て回った。カメラを購入したいと欲していたが希望のものはなかったようだ。続いて上野、ここでは上野公園内の国立博物館に入り歴史関係、日韓に関係あるものを熱心に観ていた。



博物館前で金鎮惇(左) 金承大(右)

博物館以外の施設にはあまり興味がないようだった。次に浅草、仲見世を興味ありげに見学していた。最後に神田の神保町を

希望した。韓国では日本書籍の翻訳が盛んで、特に小説の翻訳はどの外国のものより日本の小説が多いとのこと。そんな関係で韓国の知識人は日本の書店の状況を見たかったのかもしれない。

この日の夕食は私どもの主催で歓迎会をやることになった。両国の交流は食文化からともいわれているので同ホテルの食堂で純日本式の懐石料理をご馳走した。歓迎と日韓友好の挨拶をしようとしたら、呉さんが先に感謝の言葉を述べ乾杯し、和気藹々の歓談になった。呉さんは子供のころ習得した日本語を70年も忘れずにいたことに感服する。金(承大)さんも8年前は日本語が全然だめだったが勉強して片言ながら話ができ、漢字も理解できるようになっていた。

懐石料理は次から次にご馳走がでて次になにができるか楽しみで美味しい、日本酒も旨い、韓国でも輸入しているが値段は数倍すると話していた。初めは呉さんの通訳で話していたが、もどかしく、日本語の単語、漢字で筆談(漢字の意味は日本と同じ)意思が通じた。

金(承大)も7年前は日本語が全然だめだったがよく勉強して片言ながら日本語ができ漢字も理解していた。もう一人の金さんは、書家でありよく通じた。



最近の韓国人はハングル文字で漢字は学習しないとのこと、韓国では漢字が読めない人が多いため、漢字で書かれた歴史書は読めず、韓国に都合の良いように作られ

た歴史を押しつけられていると聞いていたが、この3人は正しい歴史を理解していた。5～6世紀の日本と百済の歴史で、任那や日本が百済を助けた白村江の戦いの話題になった。663年百済と日本が白村江の戦いで新羅に敗れて、新羅が朝鮮を統一するのであるが、その時百済から王族や貴族はじめ一般人が日本に亡命してきた。金さんの話では24,000人もいたとのことであった。その人達の一部は近江の国、一部は東国に定住した。その記録は私の住む埼玉県にもあり「唐沢」や「高麗」という地名が残っている。現在は同化して差別もないし、韓国人も日本人もないなど話しが進み親密感が一層湧いてきた。今韓国では反日で満ちているが、この3人の所では慰安婦問題などは話題にならず、竹島などがたまに話題になる位で、日本のことをもっとよく知り仲間になりたいと思っている人が多いとのことであった。

呉さんが私に戦争中軍歴は聞いたので、陸軍士官学校在学中終戦、韓国にも同期生がいる。韓国の全斗煥、朴斗熙大統領も同窓だと話した。

帰国の日、時間があつたので車で都内を観光する。東京都庁の展望台から都内を眺望、高層ビル群を眺めたり、渋谷のスクランブル交差点を見たりして交通マナーの良さをみて驚き、韓国はまだまだ遅れているといていた。ほかに見学したいところがあるかと聞いたら、皇居、明治神宮を観たい。金承大さんは国会図書館で益山市の昔の地図をみたいと希望したが、時間の関係で皇居だけ見学することにした。国会図書館へは私どもが代わりに行って地図をコピーして郵送することにした。皇居は工事中で二重橋や北の丸公園には行けないので徐行しながら皇居のまわりを見学した。

話によると3人は朝の散歩で飯田橋ホテルから近い靖国神社を参拝したそうだ。朝

から参拝者がいたが、好戦色や軍国主義的な雰囲気はなく静かな佇まいだったと言っていた。

羽田で見送った。韓国に帰ってから御礼の会に招待したい、ガイドの安田さんが、韓国で結婚し永住している日本女性が70人ほどいるが、その人たちが日朝併合時代の日本人の生活ぶりを聴きたいと言っていたので、韓国での再会を約して、午後8時の飛行機で韓国へ帰った。

来日した3人の韓国人は決して熱狂的な親日家ではない。私が最初に韓国を或る視察で訪問したのは1975年頃だった。まだまだ親日的な情勢ではなかった。反抗的、見下すような眼差しで見られたこともあった。韓国人の名前を呼ぶのには韓国音でないと怒るのに、私の名は平気で韓国音で紹介していた。

8年前に再び韓国を観光したら以前と違い親しさが感じられるようになっていた。韓国では合併時代から70年も過ぎて、戦争時代を知らない世代が増えている。日本のことを知りたい、仲良くしたいという人達は増えていることは確かだ。

しかし、韓国には挺対協(挺身隊問題対策協議会)という強力な反日団体があり、慰安婦問題、挺身隊問題で日本の謝罪と補償を唱えて民衆に反日を煽っている。

これが政治や司法に影響している。また平成27年11月には日本のテレビ新聞には報道されなかったが、ソウルで10万人のデモがあったとインターネットで知った。教科書を検定教科書から国定教科書にすることへの反対と慰安婦その他歴史上真実に近い内容の記載に反対していたとのことだった。反日は根強い。

韓国には「ウリ」と「ノム」という概念がある。「ウリ」とは「私たちとか味方」「ノム」は「他人・敵」という韓国人には強い習性がある。私ども日本人が「嫌韓感

情」を捨て併合時代に良いこととしたが、反省すべきことは反省し、もっと韓国人を理解する。勿論韓国人も日本のこと理解してもらい「ウリ」として信頼関係を築いていかなければならないと思う。韓国の市民

感情では日本や日本人は嫌いではないという人が増えている。反日感情が強いのはマスコミや政治関係だけのようにも感じる。民間レベルで親日感情を盛り上げて日韓仲良くなることを期待している。